



新渡戸記念 中野総合病院だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

4月号
平成30年4月1日号



東京医療

第346号
発行人/理事長 入江 徹也
発行責任者/総務課長 横井 悟

住所 東京都中野区中央四丁目59番16号
TEL 03-3382-1231 (代) 夜間受付 03-3382-9991
ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail soumu@nakanosogo.or.jp

「新たな新渡戸記念中野総合病院」出発の時

東京医療生活協同組合理事長 入江 徹也

当院が「新渡戸記念中野総合病院」となって2年半が経ちました。この間、皆様のご要望にお応えできる病院になるために、新たな医療体制づくりに励んで参りました。

平成28年には療養病棟を閉鎖して296床の一般急性期病院となり、10月に循環器内科を開設しました。平成29年度には血液内科を開設し、また心臓カテーテル室整備・リハビリテーション室移転整備を行いました。新専門医制度における「新渡戸記念内科専門研修プログラム」が日本内科学会と日本専門医機構から正式に承認され、当院の医療レベル・教育レベルが認められました。また12月には、長年の懸案であった電子カルテ導入を実現することができました。

そして平成30年2月2日には、東京医科歯科大学循環器内科の全面支援の下に、第1例目の心臓カテーテル検査・治療が施行され、これらの経緯を経て

未完成ながらも新たな医療体制の「新渡戸記念中野総合病院」が誕生しました。

本年度は「新たな新渡戸記念中野総合病院」出発の時です。循環器科3名体制(週2回の心臓カテーテル検査)が実現し、神経内科・腎臓内科が7名に増員されたことに加え、皮膚科の常勤2名体制が復活しました。

さらに4月から赴任された内原俊記神経内科臨床部長を室長とする「脳神経研究室」(略称「新渡戸脳研」)を設立し、アルツハイマー病・パーキンソン病を中心とした研究を行い、学問的活動を基盤とした医療レベルの向上を図ります。

そして院内感染予防対策をはじめとする「医療安全の改善・向上」を常に目指し、感染対策委員会・医療安全対策委員会の充実を図るために、今後も東京医科大学・東京医科歯科大学からそれぞれ専門の外部委員を招聘して、さらなる充実を図ります。

「新たな新渡戸記念中野総合病院」が動き出す今、最も大切なことは全職員が当院の理念「新渡戸稲造博士の思想・精神(誠意と思いやりの心)を基にした医療を誠実に実践し、疾病を抱えた人を真心で支援すること」を心にとめ、実践していくことなのだと思います。

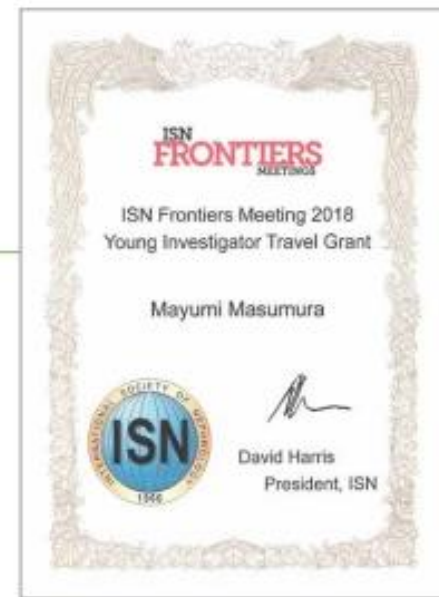
組合員の皆様のご指導・ご支援を心よりお願い申し上げます。



循環器内科 増村麻由美医師が 国際学会で受賞

当院の野田裕美腎臓内科部長が学会指名でスーパーバイザーとして参画した国際腎臓学会ISN Frontiers Meeting 2018にて、当院循環器内科の増村麻由美医師がISN Frontiers Young Investigator Travel Grantを受賞しました。

演題名は“Prognosis of patients on dialysis with Bayes syndrome”(Bayes症候群を合併した透析患者さんの予後)です。



「新渡戸記念中野総合病院だより」として 紙面をリニューアル!

事務局長 森久保 豊

今月号より本紙は、先月号までの機関紙「東京医療」から、「新渡戸記念中野総合病院だより」に紙面を変更しました。紙面も大幅にリニューアルしました。

今月号は創刊から通算して346号になりますが、第1号の創刊がいつ頃なのかが気になり、調べてみました。昭和7年にタブロイド版「医療組合運動」を創刊したようですが、昭和9年に全国医療利用組

合協会の創立とともに同協会に移管しています。

その後、昭和28年に「組合ニュース」の第1号を創刊した記録が年表にありました。とするとこれが始まりかと思いたいところですが、昭和57年7月のタブロイド版「東京医療」には、「復刊52号」と記されていますし、平成13年7月には「『東京医療だより』と『東京医療』を合一し、『東京医療』として毎月刊行することになりました」という表記があります。

創刊がいつなのか間の中に消えてしまいましたが、いずれにしても、新しい「新渡戸記念中野総合病院だより」を皆様のお力添えをいただきながら、未来永劫に続けていきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



ご存じですか?
新渡戸記念
中野総合病院の
エンブレムです



本院の印刷物等に使用されているこのマークは、エンブレム(記章)です。平成27年10月に病院名を「新渡戸記念中野総合病院」に変更したのを受け、東京医療生活協同組合に勤務する職員およびその家族にデザインを募集。応募作品の中から選ばれました。

中心に重なる「N」の文字は、新渡戸(Nitobe)と中野(Nakano)の頭文字を意味します。その文字を取り囲む稲穂は新渡戸稲造先生をイメージしたものです。こうべを垂れる稲穂が医療人としてあるべき誠実・謙虚・思いやりを表し、伸びゆく稲は本院が地域の中で成長していく姿をイメージしています。緑色は本院のイメージカラーです。

生協組合へご加入のお願い

新渡戸記念中野総合病院の母体である東京医療生活協同組合は、「消費生活協同組合」の法人です。この生活協同組合は、組合員の皆様からの出資金が経営の基盤になっています。東京都内にご住所がある方、あるいは東京都内の企業に勤務されている方であれば、どなたでも組合への加入の資格があります。

組合員にご加入いただけますと、入院されて個室に入られた場合、室料差額が1日あたり500円引きになります。また、健康管理科にて日帰り人間ドックを受けられる場合は、3,000円引きになるとい

った特典があります。

組合に加入するには、出資申込書に出資金(1口200円、25口5,000円より)を添えてお申込みください。なお、すでに組合員になられている方は、随時増資が可能ですので、担当職員にお申し付けください。

また、組合員の方でご住所等にご変更のある場合は、担当係までご連絡くださいますようお願いいたします。

担当 新渡戸記念中野総合病院 総務課
☎03-3382-1231(代)

4月の小児救急体制

新渡戸記念中野総合病院では、中野区並びに中野区医師会のご協力を得て、小児の初期(1次)救急として「準夜間小児初期救急医療」を救急外来で実施しています。

一般診療所の診察時間が終わった後、お子さまが急病の際には、下記の夜間受付電話にご連絡のうえ、ご来院ください。15歳以下のお子さまを対象に、小児科医が診療を行います。

*血液検査、点滴等の処置、入院等を必要とする場合は他病院を紹介します。

4月1日から30日までの、準夜間小児初期救急医療体制は下記の通りです。なお、都合により医師の変更もあり得ますので、ご了承ください。ご不明な点は、下記夜間受付にお問い合わせください。

受付時間 毎日午後6時30分～午後9時45分

診療時間 毎日午後7時～午後10時

夜間受付 ☎03-3382-9991

4月準夜間小児初期救急担当医

日	月	火	水	木	金	土
1 右田 王介	2 小須賀 基通	3 金 慶彰	4 宇野 真二	5 堤 範音	6 清水 泰岳	7 保崎 明
8 清水 泰岳	9 小須賀 基通	10 高梨 栄	11 久利 由美	12 木村 将裕	13 亀井 宏一	14 亀井 宏一
15 右田 王介	16 小須賀 基通	17 山田 正興	18 高梨 栄	19 堤 範音	20 亀井 宏一	21 清水 泰岳
22 清水 泰岳	23 小須賀 基通	24 細谷 直人	25 宇都 ちひろ	26 木村 将裕	27 清水 泰岳	28 右田 王介
29 亀井 宏一	30 右田 王介					

新渡戸記念 中野総合病院を支える 職場紹介

患者様の食事をサポートする“病院の台所” 栄養科

栄養科長 佐藤 剛

地下のなかなか目立たない場所にある栄養科ですが、ここは患者様の食事を作っている言わば“病院の台所”のような存在です。現在のスタッフは、管理栄養士5名、栄養士4名、調理師6名の総勢15名。

仕事内容の第一は、入院されている患者様の食事を作ること。食事の種類は、特に制限のない一般常食(ご飯食)をはじめ、全粥食、軟菜食と治療を目的とする治療食(糖尿病食、腎臓病食、肝臓病食など)、胃や腸を手術した後の術後食、飲み込みが困難な方へのペースト食、さらにはアレルギーに対応したアレルギー食など、さまざまなものがあります。

一般的に、病院食は“美味しくない”と言われるますが、当院の食事は、比較的味が良いと評判です。また、できる限り手作りをモットーに、さらには安全面にも気をつけて調理しています。栄養科は、毎日食事提供を行うため365日稼働しており、まさに病院の台所と言えるのではないのでしょうか。

次に主な仕事として、栄養相談があります。こちらは、管理栄養士が外来と入院中の患者様に対して、個別相談を行っています。糖尿病や腎臓病などの生活習慣病への指導が主です。食事は誰にとっても楽しみのひとつであるため、その方に一番合った食事療法と一緒に考えるよう心がけています。

最後になりますが、食事は人が生きていくために不可欠なものです。その食事を担っている我々の仕事はとても大切なものと考え、これからも患者様のお力となれるよう努力していきたいと思っております。



患者さんご飯食



栄養相談室

新渡戸 の 言葉

新渡戸稲造先生の数多の言葉のなかで、初めに心に響いてきたのがこの言葉である。ゼロから当院を立ち上げたとき、新渡戸先生らが当院に託したものは何か。職員一人ひとりがそれを考えることが必要であると思う。

新渡戸記念中野総合病院副院長 山根 道雄

最も必要なことは、常に志を忘れないよう心にかけて記憶することである。

新渡戸 稲造